

長寿医療研究開発費 2021年度 総括研究報告

要介護者・認知症者と家族の重度化予防・予後改善に資するコホート構築のための学際的
基盤研究（21-17）

主任研究者 斎藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（部長）

研究要旨

当研究部では今後要介護者・認知症者と家族の重度化予防・予後改善要因を包括的に検証するための学際的コホート構築を目指す。3年間の本研究では、要介護認定軽度認定者（要支援～要介護1程度）とその家族を対象とするベースラインデータ取得と本人一家族のペアを対象とする解析を主たる目的とする。2021年度は、地域との連携確立を目指し、調査対象地域の基礎資料を収集するとともに、重度化に関連する要因に関する文献レビュー、2次データ解析、測定尺度の開発を行った。

将来的には、追跡調査および公的データ突合によるコホート構築を行い、重度化リスクを包括的要因から特定する。さらに本人と家族を対象とするケアの開発・検証や経済的評価まで実施する長期研究を計画している。

主任研究者

斎藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（部長）

分担研究者

中川 威 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（主任研究員）

岡橋さやか 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（主任研究員）

野口 泰司 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（研究員）

小松亜弥音 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（研究員）

石原 眞澄 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部（研究員）

A. 研究目的

要介護認定軽度認定者（要支援～要介護1程度）が急増し、重度化予防が急務である。軽度認定者の重度化予防を介護保険サービスのみから解決するには限界があり、認知症等の疾患管理や心身機能保持、介護環境、生活習慣、社会生活も含めた包括的検証から広く支援を再構築する必要がある。とりわけ認知機能低下症状を有する人の重度化リスクは高い可能性が報告され（Lin et al., 2017）、多彩な学問領域から本人とともに介護うつ等家族要因、専門職との関わりも含めたリスク特定が急務と考える。国内には一般高齢者対象の

大規模コホートはあるが、軽度要介護者を対象に包括的検討を可能とするコホートは知る限りみられない。

上記を踏まえ、要介護者・認知症者と家族の重度化予防・予後改善要因を包括的に検証するための学際的コホート構築を目指す。さらに、将来的には、本人と家族を対象とするケア検証や経済的評価まで実施する長期研究を計画する。これらの計画を視野に入れ、本研究では、要介護者・認知症者と家族を対象とするベースラインデータ取得と解析を目的とする。

B. 研究方法

図1に本研究の3年間のスケジュールを示す。2021年度は、①調査対象地域の基礎資料の収集、②文献レビュー、③既存データによる2次データ解析、④1次データによる測定尺度の作成を行った。

	2021				2022				2023			
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
本体調査												
資料収集・整理・倫理審査												
2次データ解析・成果報告												
調査枠組み精査、調査準備												
対象地域関係構築												
パイロット実施												
パイロットデータ解析・課題点抽出												
本調査・データ整理												

図1 3年間のスケジュール

1) 調査対象地域の基礎資料の収集

地域との連携確立を目指し、調査対象地域の基礎資料の収集を行った。介護給付費等実態統計に基づき、愛知県の要介護認定者と費用額の推移を示した。

2) 文献レビュー

重度化に関連する危険因子、保護因子の特定を行うため、要介護認定度の重度化をアウトカムとした国内外の文献レビューを実施した。国内誌については医中誌およびダイア高齢社会研究財団が運営する社会科学研究雑誌データベース DiaL を用い、要介護度の悪化・変化に関する縦断的研究について検索を行った。国際誌については Pubmed を用いて日本人高齢者を対象とする要介護度変化に関する縦断的研究を検索した。

3) 既存データによる2次データ解析

心理社会的要因および家族と重度化の関連を検討した。使用データは、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブで公開されている「日米 LTCI 研究会東京・秋田調査」の個票データである。この調査は、東京都葛飾区と秋田県大館市の65歳以上地域在住要介護・要支援認定者と主介護者を対象としたパネル調査で、2003年から2007年にかけて2年毎に計3回調査が実施されている。

まず、第1回(2003年)調査の在宅要介護高齢者本人と主介護者のペアの回収票で使用変数に欠損のない643組を分析対象として、介護の意思決定への関与に関連する要因を横断的に検討した。先行研究の知見から抽出された本人・主介護者要因を独立変数、意思決定関与の有無を従属変数とする多重ロジスティック回帰分析を行った。

次に、2年間の縦断データを用いて、在宅要介護高齢者の介護の意思決定への関与が認知機能に及ぼす影響を縦断的に検討した。第1回調査時にペアで回答があり、本人の認知機能低下がみられず、第2回(2005年)調査に回答があって使用変数に欠損のない219組を分析対象とした。意思決定関与の有無を独立変数とし、認知機能低下有無を従属変数とする多重ロジスティック回帰分析を行った。

4) 1次データによる測定尺度の作成

重度化予防に資する社会環境的要因として、人々の認知症スティグマに着目し、日本においても使用可能な認知症スティグマ評価尺度の作成を行った。

認知症スティグマ評価尺度を取り上げ(Phillipson et al., 2012), 順翻訳・逆翻訳を施し、日本語への翻訳を行った。尺度の妥当性の検証のために、インターネット調査会社における調査モニターへのアンケート調査を実施した。

(倫理面への配慮)

④一次データによる測定尺度の開発については、調査対象者に研究の趣旨を説明し、同意の得られた者に質問紙への回答を求めた。なお、国立長寿医療研究センター倫理・利益相反審査委員会の承認を受け実施した(承認番号1506, 1534)。

①, ②, ③については、公開データや公刊された文献を用いたため、倫理的配慮の検討する研究には該当しない。

C. 研究結果

1) 調査対象地域の基礎資料の収集

介護給付費等実態統計に基づき、調査対象地域である愛知県の要介護度認定者数と要介護度別費用額の推移を集計した。愛知県では、要介護認定軽度認定者(要支援～要介護1程度)の増加が最も顕著である(図2)。また、特に軽度～要介護度3の費用額が増加して

いる（図3）。これらの基礎資料からも、介護予防・重度化予防の推進を重視すべきであることが示唆される。

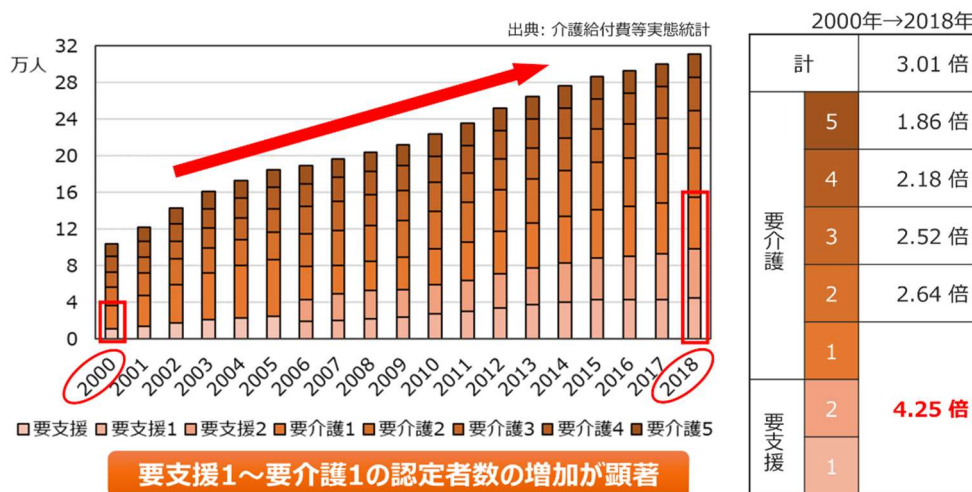


図2 愛知県の実介護認定者数の推移

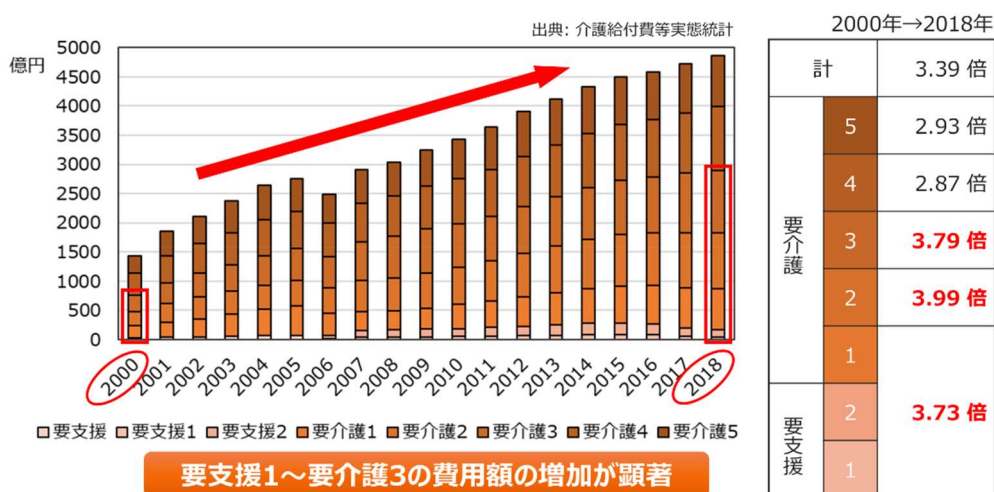


図3 愛知県の介護度別費用額の推移

2) 文献レビュー

該当する79論文の中には解析例数が少なく、検出力不十分な可能性のある論文も多くみられた。重度化の主要な要因として、認知症や骨関節疾患等の疾患、歩行能力ややせ等の身体的フレイル、排泄等の生活機能、介護保険サービス、特にパワーリハビリテーションの効果有無に関する研究が多く認められた。一方、社会的役割や外出頻度、抑うつなどの心理社会的要因、家族構成や介護状況などの家族要因に着目した知見はわずかであった。地域特性や社会環境といったマクロ要因との関連については報告されていなかった。引き続き、要介護度や日常生活動作、QOL等先行研究における結果の整理を進め、頑健な要因と不明確な要因を精査する。

3) 既存データによる2次データ解析

要介護高齢者の生活支援において、日々のケアに関する意思決定への本人の関与を高めることや本人の意向を尊重することは、QOLの維持・向上に重要であることが指摘されている(Onishi et al., 2010; Moilanen et al., 2021)。また、施設入居者を対象とした研究では低い自律性が予後の悪化につながる可能性も指摘されており(Kasser and Ryan, 1999)、在宅要介護高齢者においても日々のケアの意思決定への関与が重度化に対して保護的効果を持つ可能性がある。そこで、在宅要介護者の意思決定関与を促進・阻害する要因の検討、および意思決定関与が認知機能低下に及ぼす影響の検討を行った。

その結果、本人の意思決定関与には、家族介護者による本人の意向尊重が有意な正の関連を示した。主介護者が本人の意向を尊重している場合にはそうでない場合に比べて、本人が介護への意思決定に関与していた。このことから、家族中心のケアチームで本人の意向を尊重する方針を共有することが、高齢者本人の意思決定関与度を高め、本人主体の介護の実現につながる可能性が示唆された(Komatsu et al., 投稿中)。

さらに、意思決定への関与は認知機能低下の新規発生に有意な負の関連を示した。日常生活介護の意思決定に関与している要介護高齢者はそうでない人に比べ認知機能低下のリスクが低いことが示唆された(Komatsu et al., 2021)。このことから、要介護高齢者のその後の認知機能低下のリスクを低減するためには、日常生活介護の意思決定への本人の関与が重要であることが示唆された。

4) 1次データによる測定尺度の作成

2021年9月に調査を完了し、20～60代の精神疾患を有していない一般成人1172人から回答を得た(平均年齢44.9歳;女性50.1%)。対象者特性を表1に示す。全年齢に渡る回答が得られ、また男女がほぼ同数であった。学歴は高卒または大学卒が多かった。居住地域については、おおむね人口規模に比例した回答が得られた。

現在、探索的因子分析および確証的因子分析から尺度の因子的妥当性の検証を進めており(Nakagawa, Noguchi, & Saito, 2021)、今後、エイジズム、被援助志向性、認知症態度などの外的基準との相関関係の検討から基準関連妥当性を検証の上、日本において使用可能な認知症スティグマ評価尺度の構築を行う。本研究をとおして、認知症スティグマの評価が可能となり、要介護者の重度化予防やwell-beingも含めた予後改善の検討に向けた、地域の社会環境要因としての探索や評価を行っていく。

表 1 対象者特性

		n = 1172
年齢 (歳), n (%)	20-29	226 (19.3)
	30-39	237 (20.2)
	40-49	238 (20.3)
	50-59	237 (20.2)
	60-69	234 (20.0)
性別, n (%)	男性	585 (49.9)
	女性	587 (50.1)
学歴, n (%)	小学校・中学校卒	12 (1.0)
	高校卒	313 (26.7)
	大学卒	776 (66.2)
	大学院卒	71 (6.1)
居住地域, n (%)	北海道	56 (4.8)
	東北	54 (4.6)
	関東	485 (41.4)
	北陸・甲信越	66 (5.6)
	東海	136 (11.6)
	関西	217 (18.5)
	中国	44 (3.8)
	四国	29 (2.5)
	九州・沖縄	85 (7.3)

D. 考察と結論

2021 年度は、愛知県内の各市町村の関係者にヒアリングを行うとともに、4 市町の関係者と打合せを行った。2022 年度は、これらの自治体との調整を継続し、研究として必要な対象者数や調査方法等について引き続き精査する予定である。保険者に連携を依頼する中で、パイロット調査と本調査の実施時期の見直しを行っているが、2023 年の本調査の完遂に向け、着実に進めている。

期間中に得たベースラインデータを用いた解析は、横断的研究ではあるが、本人と家族のペア、さらに介護支援専門員とのペアを解析対象としており、特に本人のアウトカムを対象とするペアの解析は国内外において数少ない知見となる可能性がある。

さらに、将来的に追跡調査と公的データ突合を行い、家族や専門職と本人のペア解析や独居者データ解析、経済的評価やプログラム検証まで視野に入れている。例えば家族支援の制度化や認知症の早期診断・治療開始など、重度化予防のための具体策を示唆するエビデンスを多角的に示すことが期待される。

また、本研究は将来的には公的機関からの競争的資金を用い、多機関共同による複数地

域における大規模実施を志向している。調査実施と平行して国内でのネットワーキングを進める予定である。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Saito T, Nishita Y, Tange C, Nakagawa T, Tomida M, Otsuka R, Ando F, Shimokata H, Arai H. Association between intra-individual changes in social network diversity and global cognition in older adults: Does closeness to network members make a difference? *Journal of Psychosomatic Research*, 110658-110658, Oct 2021.
- 2) Tomida M, Nishita Y, Tange C, Nakagawa T, Otsuka R, Ando F, Shimokata H. Typology of Work–Family Balance Among Middle–Aged and Older Japanese Adults. *Frontiers in Psychology*, (13) 751879, March 16 2022.
- 3) Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu A, Ishihara M, Saito T. Aging-in-place preferences and institutionalization among Japanese older adults: a 7-year longitudinal study. *BMC Geriatrics*, 22 (66) Jan 21 2022.
- 4) Nakagawa T, Nishita Y, Tange C, Tomida M, Otsuka R, Ando F, Shimokata H. Does positive affect predict mortality and morbidity? A 19-year longitudinal study of middle-aged and older Japanese adults. *Journal of Research in Personality*, 104204, Feb 2022.
- 5) Wei-Ling C, Nishita Y, Akinori Nakamura A, Kato T, Nakagawa T, Shu Z, Shimokata H, Otsuka R, Kuan-Pin S, Arai H. Hemoglobin Concentration is Associated with the Hippocampal Volume in Community-Dwelling Adults *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 104668, Feb 2022.
- 6) 崔煌, 榎藤恭之, 増井幸恵, 中川威, 安元佐織, 小野口航, 池邊一典, 神出計, 樺山舞, 石崎達郎. 高齢者における社会参加, ソーシャル・キャピタル, 主観的健康感の関連. *老年社会科学*, 43(1)5-14, 2021.
- 7) Nakagawa T, Cho J, Yeung Y D. Successful aging in East Asia: Comparison among China, Korea, and Japan. *The Journals of Gerontology: Series B*, 76 : S17-S26, June 8 2021.
- 8) Shimoda M, Kaneko K, Nakagawa T, Kawano N, Otsuka R, Ota A, Naito H, Matsunaga M, Ichino N, Yamada H, Chiang C, Hirakawa Y, Tamakoshi K, Aoyama A, Yatsuya H. Relationship between fasting blood glucose levels in middle age and cognitive function in later life: The Aichi Workers' Cohort Study. *Journal of Epidemiology*. DOI: 10.2188/jea.JE20210128, May 22 2021.
- 9) Nakagawa T, Hülür G. Life Satisfaction during the Transition to Widowhood among Japanese Older Adults. *Gerontology*, 67 : 338-349, May 4 2021.

- 10) Noguchi T, Kondo F, Nishiyama T, Otani T, Nakagawa-Senda H, Watanabe M, Imaeda N, Goto C, Hosono A, Shibata K, Kamishima H, Nogimura A, Nagaya K, Yamada T, Suzuki S. The Impact of Marital Transitions on Vegetable Intake in Middle-aged and Older Japanese Adults: A 5-year Longitudinal Study. *Journal of Epidemiology*, 32(2) 89-95, Feb 5 2022.
- 11) Noguchi T, Nakagawa T, Komatsu A, Ishihara M, Shindo Y, Otani T, Saito T. Social functions and adverse outcome onset in older adults with mild long-term care needs: A two-year longitudinal study. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 104631, Jan22 2022.
- 12) Noguchi T, Ishihara M, Murata C, Nakagawa T, Komatsu A, Kondo K, Saito T. Art and cultural activity engagement and depressive symptom onset among older adults: A longitudinal study from the Japanese Gerontological Evaluation Study. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, DOI: 10.1002/gps.5685, Jan 29 2022.
- 13) Ikeda T, Cable N, Saito M, Koyama S, Tsuji T, Noguchi T, Kondo K, Osaka K, Aida J. Association Between Social Isolation and Smoking in Japan and England. *Journal of Epidemiology*, DOI: 10.2188/jea.JE20200138, Oct 5 2021
- 14) Hayashi T, Noguchi T, Kubo Y, Tomiyama N, Ochi A, Hayashi H. Social frailty and Depressive Symptoms during the COVID-19 Pandemic among Older Adults in Japan: Role of Home Exercise Habits. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, DOI: 10.1016/j.archger.2021.104555, Oct 27 2021.
- 15) Kubo Y, Noguchi T, Hayashi T, Tomiyama N, Ochi A, Hayashi H. Changes in psychosocial factors among community-dwelling older adults before and after Japan's declaration of a state of emergency over coronavirus disease 2019. *Psychogeriatrics*, DOI: 10.1111/psyg.12772, Oct 27 2021.
- 16) Noguchi T, Hayashi T, Kubo Y, Tomiyama N, Ochi A, Hayashi H. Association between decreased social participation and depressive symptom onset among community-dwelling older adults: a longitudinal study during the COVID-19 pandemic. *The Journal of Nutrition, Health and Aging*, 25(9):1070, Sep 15 2021
- 17) Iguchi S, Inoue-Hirakawa T, Nojima I, Noguchi T, Sugiura H. Relationships between stress urinary incontinence and trunk muscle mass or spinal alignment in older women. *LUTS: Lower Urinary Tract Symptoms*. DOI: 10.1111/luts.12403, July 20 2021.
- 18) Noguchi T, Murata C, Hayashi T, Watanabe R, Saito M, Kojima M, Kondo K, Saito T. Association between community-level social capital and frailty onset among older adults: a multilevel longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study. *Journal of Epidemiology and Community Health*. DOI: 10.1136/jech-2021-217211, Aug 2 2021.
- 19) Noguchi T, Hayashi T, Kubo Y, Tomiyama N, Ochi A, Hayashi H. Association between Family Caregivers and Depressive Symptoms among Community-Dwelling Older Adults in Japan:

A Cross-Sectional Study during the COVID-19 Pandemic. Archives of Gerontology and Geriatrics. (96) 104468, June 23 2021.

20) Noguchi T, Kubo Y, Hayashi T, Tomiyama N, Ochi A, Hayashi H. Social isolation and self-reported cognitive decline among older adults in Japan: A longitudinal study in the COVID-19 pandemic. Journal of the American Medical Directors Association. 22(7):1352-1356.e2, May 21 2021.

21) Koyama, S Saito, M Cable, N Ikeda, T Tsuji, T Noguchi, T Abbas, H Miyashiro, I Osaka, K Kondo, K G Watt, R Aida, J. Examining the associations between oral health and social isolation: A cross-national comparative study between Japan and England. Social Science & Medicine, Vol. 277 113895, May 2021.

22) Noguchi T, Nojima I, Inoue-Hirakawa T, Sugiura H. Role of non-face-to-face social contacts in moderating the association between living alone and mental health among community-dwelling older adults: a cross-sectional study. Public Health, 194 : 25-28, April 10 2021.

23) Noguchi T, Nojima I, Inoue-Hirakawa T, Sugiura H. Association between Social Frailty and Sleep Quality among Community-Dwelling Older Adults: A Cross-Sectional Study. Physical Therapy Research 24(2) 153-162, April 1 2021.

2. 学会発表

1) 斎藤民, 杉本大貴, 小野玲, 中川威, 野口泰司, 小松亜弥音, 内田一彰, 黒田佑次郎, 荒井秀典, 櫻井孝. 家族の介護負担感と認知症者の死亡リスク：もの忘れ外来患者コホート (NCGG-STORIES) . 第32回日本疫学会学術総会. 2022年1月26-28日, オンライン開催.

2) 斎藤民, 中川威, 野口泰司, 小松亜弥音, 石原真澄, 小野玲. 認知症者の社会参加と死亡リスク：もの忘れ外来患者コホート (NCGG-STORIES) . 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021年12月21-23日, ハイブリッド開催.

3) Saito T, Arai H, Seike A, Kondo I, Osawa A, Sakutai T, Kinoshita F. Group-based dyadic support programs for persons with mild cognitive impairment or dementia and their family caregivers. The National Academy of Medicine (NAM)'s inaugural Healthy Longevity Global Innovator Summit. 2021年9月13-14, 22日, オンライン開催.

4) 斎藤民. 独居高齢者の健康と生活像: 社会老年学における知見から. 第32回日本老年学会総会 合同シンポジウム. 2021年6月12日, 愛知県名古屋市.

5) 伊藤大介, 斎藤民, 近藤克則. 地域在住高齢者における地域包括支援センター等の相談機関への援助要請と抑うつとの関連：地域生活課題の重篤化予防の観点から：JAGES 横断研究. 日本老年社会科学会第63回大会（ポスター発表）, 2021年6月12日, オンライン開催.

- 6) 福定正城、斉藤雅茂、近藤克則、斎藤民。高齢者の被対面交流と精神的健康との関連：JAGES2019 横断研究。日本老年社会科学会第 63 回大会（ポスター発表）、2021 年 6 月 12 日、オンライン開催。
- 7) 小嶋雅代、渡邊良太、安岡実佳子、竹内研時、斎藤民、寺部健哉、小嶋俊久、尾島俊之、近藤克則。地域在住高齢者における関節リウマチの診断とフレイル、社会的背景に関する検討：JAGES 横断研究。第 32 回日本疫学会学術総会 2022 年 1 月 26-28 日、オンライン開催。
- 8) 清家理、竹内さやか、萩原淳子、猪口里永子、伊藤真奈美、天白宗和、溝神文博、鈴木宏和、堀部賢太郎、斎藤民、武田章敬、櫻井孝、荒井秀典。MCI または認知症を有する人と家族介護者への心理社会的教育支援プログラムの RCT-Pilot study-第 40 回日本認知症学会 学術集会 2021 年 11 月 26-28 日、オンライン開催。
- 9) 中川威、安元佐織、樺山舞、松田謙一、権藤恭之、神出計、池邊 一典。高齢者における日々の社会的交流と感情の関連日誌調査による検討。日本発達心理学会第 33 回大会 2022 年 3 月 5-7 日、オンライン開催
- 10) Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu A, Ishihara M, Saito T. Trajectories of Functional Health Following Stroke: The Role of Social Resources. GSA 2021 Annual Scientific Meeting. Nov 13-15 2021, オンライン開催。
- 11) Nakagawa T, Noguchi T, Saito T. Prejudice and discrimination against people with dementia. The 15th International Congress of the Asian Society Against Dementia. Nov 6-10 2021, ハイブリッド開催。
- 12) 中川威、安元佐織、樺山舞、松 謙一、権藤恭之、神出計、池邊一典。今夜の睡眠が翌日の疲労感と関連する：高齢者を対象とする日誌調査。日本心理学会第 85 回大会。2021 年 9 月 1 日-8 日、オンライン開催。
- 13) 中川威、野口泰司、小松亜弥音、石原眞澄、斎藤民。心疾患罹患に伴う人生満足度の変化。日本老年社会科学会第 63 回大会。2021 年 6 月 12 日、オンライン開催。
- 14) 黒澤泰、三橋翔太、松平泉、中川威、増井幸恵。Hard-to-Survey 概念を再考する開けられる扉/開けづらい扉/鍵のない扉。日本発達心理学会第 33 回大会。2022 年 3 月 5-7 日、オンライン開催。
- 15) 秋田喜代美、成田健一、伊藤大幸、江尻桂子、奥村優子、中川威、畑野快、林創、武藤世良、氏家達夫。誰もが無理なく楽しく活躍できる面白い学会とは？日本発達心理学会の将来を展望した研究活性化に向けて。日本発達心理学会第 33 回大会。2022 年 3 月 5-7 日、オンライン開催。
- 16) Cho J, Nakagawa T, Dannii Y. Y. Influence of Social Determinants on Self-Rated Health in Three Countries of East Asia . GSA 2021 Annual Scientific Meeting. Nov 13-15 2021, オンライン開催。
- 17) 増井幸恵、権藤恭之、中川威、春日彩花、小川まどか、稲垣宏樹、吉田祐子、堀紀子、小野口航、蔡羽淳、松本清明、菊地亜華里、程雨田、武藤拓之、石岡良子。後期高齢者・超高齢者にお

ける老年的超越がその後精神的健康に及ぼす影響の年齢差の検討：SONIC 研究データを用いた縦断的検討。日本心理学会第 85 回大会。2021 年 9 月 1 日-8 日,オンライン開催。

18) 西田裕紀子, 増井幸恵, 中川威, 榎藤恭之。高齢者のパーソナリティと健康。日本老年社会科学会第 63 回大会。2021 年 6 月 12 日,オンライン開催。

19) Baldock J, Cha Y, Chung E K H, Goel V, Huang B S-T, Nakagawa T, Okamoto S, Senevirathne S, Rini S S, Irving J, Meyer C. Pause, pivot and proceed! Undertaking Study and Research in Times of Uncertainty. IAGG 2021 E-Conference. Jun 23 2021,オンライン開催。

20) 精山明敏, 小西奈美, 岡橋さやか, モンテ カセム。視覚情報が触覚に与える影響の NIRS による検討。第 99 回日本生理学会大会。2022 年 3 月 16-18 日,ハイブリッド開催。

21) 鈴木賢人, Luciano H O Santos, 劉暢, 植嶋大晃, 山本豪志朗, 杉山治, 岡橋さやか, 黒田知宏。リハビリテーション支援のための動作推定を用いた上肢機能評価及び可視化。第 196 回 ヒューマンコンピュータインタラクション研究会。2022 年 1 月 11-12 日,ハイブリッド開催。

22) 野口泰司, 藤原聡子, 鄭丞媛, 井手一茂, 斎藤民, 近藤克則, 尾島俊之。高齢者・認知症にやさしいまち指標と健康・幸福の関連：JAGES 横断研究。第 32 回日本疫学会学術総会。2022 年 1 月 26-28 日,オンライン開催。

23) Noguchi T, Hayashi T, Kubo Y, Tomiyama N, Ochi A, Hayashi H. Family Caregiving and Depression among Older Adults in Japan: A Cross-Sectional Study during the COVID-19 Pandemic. GSA 2021 Annual Scientific Meeting. Nov 13-15 2021,オンライン開催。

24) 野口泰司, 中川威, 小松亜弥音, 石原真澄, 進藤由美, 斎藤民。軽度要介護認定高齢者における社会的機能と重度化の関連：2 年間の縦断研究。第 8 回日本地域理学療法学会学術大会。2021 年 12 月 4-5 日,オンライン開催。

25) 野口泰司, 林尊弘, 窪優太, 富山直輝, 越智亮, 林浩之。地域在住高齢者における社会参加状況の変化と抑うつ発生の関連：COVID-19 流行期間中の縦断研究。第 8 回日本予防理学療法学会学術大会。2021 年 11 月 13 日,オンライン開催。

26) 野口泰司, 小野玲, 中川威, 石原真澄, 小松亜弥音, 斎藤民。認知症者における行動心理症状と予後の関連：NCGG-STORIES。第 8 回日本予防理学療法学会学術大会。2021 年 11 月 13 日,オンライン開催。

27) Noguchi T, Kakizaki M, Wakabayashi R, Nakagawa H, Nishiyama T, Watanabe M, Hosono A, Shibata K, Ichikawa M, Kamishima H, Watanabe H, Ema K, Nagaya K, Yamada T, Suzuki S. Social inequalities in second-hand smoking among Japanese adults: A repeated cross-sectional study. World Congress of Epidemiology 2021. Sep 3-6 2021,オンライン開催。

28) 野口泰司, 窪優太, 林尊弘, 富山直輝, 越智亮, 林浩之。社会的孤立の変化と認知機能低下の関連—COVID-19 流行期間における縦断研究—。日本老年社会科学会第 63 回大会。2021 年 6 月 12 日,オンライン開催。

- 29) 林尊弘, 野口泰司, 渡邊良太, 阿部紀之, 辻大士, 齊藤雅茂, 近藤克則. フレイルの社会的側面の構成要素と要介護認定発生との関係: JAGES2016 コホート研究. 第 32 回日本疫学会学術総会. 2022 年 1 月 26-28 日, オンライン開催.
- 30) 尚爾華, 野口泰司, 北澤一利, 中野匡隆, 肥田幸子, 渡辺弥生, 森満. 介護予防施策としての「通いの場」が参加者の心身に及ぼす影響: アクションリサーチによる事例報告. 第 32 回日本疫学会学術総会. 2022 年 1 月 26-28 日, オンライン開催.
- 31) 砂山真琴, 西山毅, 渡邊美貴, 大谷隆浩, 野口泰司, 野木村茜, 柴田清, 中川弘子, 山田珠樹, 鈴木貞夫. 壮年期および高齢期における、HbA1c と転倒に基づく骨折との関連の縦断研究: J-MICC Study 岡崎研究. 第 32 回日本疫学会学術総会. 2022 年 1 月 26-28 日, オンライン開催.
- 32) 渡邊良太, 辻大士, 井手一茂, 野口泰司, 安岡実佳子, 上地香杜, 佐竹昭介, 近藤克則, 小嶋雅代. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の基本チェックリストは要介護認定発生を予測するかーJAGES コホート研究ー. 第 32 回日本疫学会学術総会. 2022 年 1 月 26-28 日, オンライン開催.
- 33) 窪優太, 野口泰司, 林尊弘. COVID-19 禍における地域在住高齢者の孤食と体重変動に関する縦断研究. 第 80 回日本公衆衛生学会総会. 2021 年 12 月 21-23 日, ハイブリッド開催.
- 34) 林尊弘, 野口泰司, 窪優太. COVID-19 流行下における社会的フレイルと抑うつとの関連および運動習慣による緩衝影響. 第 80 回日本公衆衛生学会総会. 2021 年 12 月 21-23 日, ハイブリッド開催.
- 35) Koyama S, Saito M, Cable N, Ikeda T, Tsuji T, Noguchi T, Abbas H, Miyashiro I, Osaka K, Kondo K, G Watt R, Aida J. Examining the associations between oral health and social isolation: A cross-national comparative study between Japan and England. International Association for Dental Research 2021. July 21 2021, オンライン開催.
- 36) 窪優太, 野口泰司, 林尊弘, 富山直輝, 林浩之. Coronavirus disease 2019 感染症緊急事態宣言が地域在住高齢者の抑うつに与える影響. 第 55 回日本作業療法学会. 2021 年 9 月 11-12 日, オンライン開催.
- 37) 野嶋一平, 山本周平, 佐藤正彬, 塚越大智, 竹田周平, 野口泰司, 和田有子, 瀬戸達一郎, 堀内博志. せん妄患者に対する早期リハ介入の在院日数抑制効果ー心血管術後 ICU における介入ー. 第 5 回日本循環器理学療法学会学術大会. 2021 年 8 月 28 日, オンライン開催.
- 38) Koyama S, Saito M, Cable N, Ikeda T, Tsuji T, Noguchi T, Abbas H, Miyashiro I, Osaka K, Kondo K, G Watt R, Aida J. Examining the associations between oral health and social isolation: A cross-national comparative study between Japan and England. International Association for Dental Research 2021. July 21 2021, オンライン開催.
- 39) 杉本大貴, 櫻井孝, 野口泰司, 小松亜弥音, 中川威, 植田郁恵, 大沢愛子, 李相侖, 小野玲, 斎藤民. もの忘れ外来受診者における生命予後の予測モデルの作成. 第 63 回日本老年医学会学術集会. 2021 年 6 月 11, オンライン開催.

40) 白井裕也, 松永直道, 立松典篤, 行徳真波, 小林達也, 井上倫恵, 竹中裕人, 野口泰司, 野嶋一平, 杉浦英志. 高齢者における生体電気インピーダンス法による位相角とプレフレイルの関連. 第 58 回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2021 年 6 月 11 日, オンラインハイブリッド開催.

41) Komatsu A, Nakagawa T, Noguchi T, Saito T. Involvement in Decision-Making for Daily Care and Cognitive Decline among Older Adults Who Need Care in Japan. GSA 2021 Annual Scientific Meeting. Nov 13-15 2021, オンライン開催.

42) 小野玲, 櫻井孝, 杉本大貴, 内田一彰, 小松亜弥音, 野口泰司, 中川威, 荒井秀典, 斎藤民. 病型別にみたもの忘れ外来受診者の生命予後と死亡原因. 第 40 回日本認知症学会 学術集会. 2021 年 11 月 26-28 日, 第 40 回日本認知症学会 学術集会 2021 年 11 月 26-28 日, オンライン開催.

43) 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 石原真澄, 斎藤民. 在宅要介護高齢者における介護への意思決定関与に関連する要因の検討. 日本老年社会学会第 63 回大会. 2021 年 6 月 12 日, オンライン開催.

44) 杉本大貴, 櫻井孝, 小松亜弥音, 野口泰司, 中川威, 木村藍, 小野玲, 斎藤民. 認知症患者の希望する死亡場所と実際に関する実態調査. 第 10 回日本認知症予防学会学術集会. 2021 年 6 月 24-26 日, ハイブリッド開催.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし